

■ 社員の意識を一つにまとめ 組織の質も高まる

日本文理大経営経済学部
山内勝義教授

士気を上げるために、企業が社内報や社歌、朝礼を活用する意義とは。日本文理大経営経済学部の山内勝義教授(62)＝コミュニケーション戦略、顔写真＝に聞いた。



コロナ禍でリモートワークを導入したり、社員の出勤率を抑えたりする会社が増えた。リモートワークはいい面もあるが、顔を合わせない分、社員同士のつながりが希薄になりがち。組織の方針や、他部門の動きにも関心を寄せても

らわないと会社に対するロイヤルティ（愛着、忠誠心）はなかなか上がらない。

新しい働き方の下で、社内報や朝礼、社歌などの昔ながらのツールが見直されることはあり得る話だ。いずれも社員の意識を一

つにまとめる力があり、会社の持続性、強さを高めるために役立つ。大切なクライアントへの一貫した対応について、全社員の意識をまとめることにも有効だ。

一方、朝礼のための朝礼、社内報のための社内報というような、ただ漠然と義務感で続けては効果は乏しい。時代に即した役割をきちんと持たせ、社員が「何のためにやっているのか」を理解しているか常に見定める必要がある。

もちろん、なくても組織は回るだろうが、「ある」と「なし」では、質の面で差が出るかもしれない。働くのであれば、質の高い会社で働く方が社員も幸せだ。ホームページで公開し、社内の雰囲気や営業活動にもつながるだろう。いま、企業が抱える深刻な問題のひとつに、離職率の高さがある。特に若い社員の離職を防ぐ点で、会社の一体感を深めることは効果があるはずだ。